

2 市町議会と県議会との交流・連携「全体会議」の結果概要

(1) 日時

平成24年2月6日(月) 13時30分～16時

(2) 場所

三重県勤労者福祉会館6階講堂

(3) 主催

三重県市議会議長会、三重県町村議会議長会、三重県議会・議会改革推進会議

(4) 参加者数

28市町及び県議会から108人が参加し、64人が傍聴

	参加 (議長等)	傍聴			計
		議員	事務局	一般	
市	42	0	16	0	58
町	53	4	15	0	72
県	13	11	17	0	41
計	108	15	48	0	171
一般				1	1
合計	108	15	48	1	172

(5) プログラム

開会挨拶(13時30分～13時35分)

町村議会議長会 飯田徳昭会長

三重県議会 山本教和議長

講演(13時35分～14時55分)

「地方議会における東日本大震災への対応」

前岩手県議会議長 佐々木 一榮氏

「東日本大震災に学ぶ今後の地震対策」

名古屋大学大学院環境学研究科教授 福和 伸夫氏

意見交換(15時05分～16時)

進行 三重県議会議会改革推進会議 三谷哲央会長

閉会挨拶(16時～16時03分)

市議会議長会 安藤寛雅会長

(6) 主な質問

印は会場からの質問、ご意見、 印は講師、進行役からの回答等

三重県が津波浸水予測の速報版を出したが、地名表示の誤りが多い。また、文科省が行っている地震計の設置等の研究の成果を政策提言につなげるべきではないか。ドワーネットの海底地震計の設置により緊急地震速報が皆さんに早く伝わるようになったという成果があった。地名の誤りはもともと背景のベースマップ、使用した地図がずれていたものだが確定版では全部修正すること。

議会の災害対策本部への関与等、三重県議会の対応は。

県の災害対策本部へ県議会は位置付けられていない。災害時の決まりも正副議長についてのみであり定められていない。

岩手県では地震発生時にたまたま会議中で議員がいたので対応できたが、議会の災害対応はこれから検討すべき。

3連動地震が起こったら1週間は東紀州に救援が来ないと思うがどうか。

岩手県でも1週間以上救援は来なかった。

東紀州のような自活できる地域の方が都会よりも有利。むしろ都会を助けてほしい。中央構造線を高速道路が走っているが活断層の状況はどうか。

三重県の中央構造線は活動の記録はない。むしろ養老、桑名、四日市、布引、頓宮、木津川断層の方が注意すべき。

議会が災害対策本部にどう関わっていくか、今後もこういう機会を作って欲しい。岩手県の取組で、各市町に行って調査をしたとのことだが、今も継続しているのか市町と県との連携は日常的にどう図られてきたのか。

3月15日に議会を閉会しており、一回目は副議長と私で回った。

特別委員会設置後に4班に分けて各市町を回った。国会議員の調査への対応が大変だったので、市町への調査には負担にならないよう気を使った。日常的な市町議会との連携は図っていない。

長島の輪中地域の地震対策、桑名の活断層の活動状況について教えてほしい。

桑名の活断層が地震を起こすのは700~1000年ほどの周期かと考えられているので、直近には大きな地震を起こすことはないかもしれない。

輪中のような土地はどういうふうに活用すべきか、今後も堤防を維持できるか言いにくいですが、遠い将来に向かって考える必要がある。

川越町は海拔0メートルで液状化の問題があり、防災対策について教えてほしい。地域の災害に弱いところ、敵の姿が分かって、それについて地域で話し合えれば1番いい。

今後の放射能対策。

三重県のがれき処理については、市町の意見をよく聞いたうえで県議会で議論していきたい。

